



お抹茶碗を拝見



お茶会は大にぎわい



左から、マサさん、弥月さん、悦子さん、結斐さん、しずかさん。

と、そこに上品な和服姿の女性と若い女性のグループ。さっそく声を掛けますと、看護福祉大学の茶道サークルの皆さん。和服姿が美しい顧問の岸マサさん(御成町三丁目)と、玉田結斐さん(弘前市出身)、工藤しずかさん(潟上市出身)、熊谷弥月さん(男鹿市出身)、成田悦子さん(秋田市出身)の学生さんたち。「看護学生に茶道を理解してもらって、少しでも看護に役立ててもらえれば」とマサさん。「サークルに入って初めて茶道に触れました。奥が深いです」と結斐さん。「大叔母さんがお茶をやってるんで、ちょっとだけ教わりました。今日は緊張した」のは悦子さん。どうやら学生さんは、皆さんサークルに入ってから本格的に始めたようです。「幼い頃入院したときに看護してくれた看護師さんに憧れて、大学に入りました。患者さんの訴えが分かる看護師さんになりたい」と、抱負を語るしずかさん。「私も、触れ合った看護師さんに憧れて看護の道へ進んだんです。一人ひとりに適した看護ができるようになりたい」と弥月さん。皆さんきつとすばらしい看護師さんになりますよ。私が受診したときには、どうか面倒見てやってください。

歩いて会って何でも話す
ワクワクの突撃取材

あつてグッド

市民の皆さんが
たくさん登場

これまでの
登壇者数 500人

82,536人
(H20.3.1現在)

「あつてグッド」は、歩いて行くの方言「あつてえぐ」と会って良かった(グッド)を掛け合わせ、もじったものです。

会場では、

宮館恵月同好会の皆さんが、てきぱきとお茶を出しています。代表の恵月さん(相染町)にお話しを伺いました。

「平成11年からお茶会を開いています。お茶が好きなので、皆さんに少しでもお茶の楽しさを味わってもらえればと思っています。毎回趣向を凝らしています。こうしてできるのも、会員の皆さんやいらしていただくお客様のおかげです」とおっしゃる先には、野点風(のたて)に大きな朱色の和傘があつて、まるで野外でいらしているよう。素敵な茶会を開いていただき、ありがとうございます。

普段、お茶をいただくことなんかありませんから、こういう機会ってというのは、とっても大事だと思います。心身がリフレッシュされる感じ。そう言えば、おひなさま茶会ですから、回りにはたくさんおひなさまが展示されていますけど、花より団子の私には、お茶の紹介で手一杯。すばらしいおひなさまの紹介はまた次の機会にでも。では、次回もあつてグッド!



宮館恵月同好会の
宮館恵月代表。

お茶会には、市外からのお客さんも多いとか。事実、広報にもお茶会への問い合わせが秋田市などからありました。